

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」

DIVERSITY NEWS

03 2025 月号



岡山大学ダイバーシティ推進本部

01 岡大発・女性もっと活躍宣言！WITHプラン 2023-2028

Features

本事業の
特色

- ☑ 「岡大発・女性もっと活躍宣言！ WITH プラン」をコンセプトに、新たにリーダー育成プログラムを実施し、女性上位職・管理職候補者層を充実させるとともに、准教授以上の上位職女性教員の増員ならびに女性教員割合の増加を図ります。
- ☑ 全学の女性教員割合を組織目標の重要事項と位置づけ、その達成に向けた目標・取り組みを部局ごとに設定します。
- ☑ 役員および教育研究評議会に占める女性割合についても目標を定め、増加を図ります。
- ☑ これらの取り組みを通して、本学の目標とする真のダイバーシティ&インクルージョンを進めるとともに、大学全体の一層の活性化を目指します。



The goal 2023-2028

本事業の
取組
目標

- 01 女性教員新規採用割合：分野ごとの政府目標値以上
- 02 女性教員割合25%
- 03 准教授の女性割合25%
- 04 教授の女性割合14%
- 05 理系（理・工・農）学部の女性教授を4倍増
- 06 教育研究評議会の女性割合20%
- 07 役員の女性割合30%
- 08 岡山大学版リーダー育成プログラムによる教授候補者の育成

02

全力でサポートします！



岡山大学 理事（企画・評価・総務担当）/ダイバーシティ推進本部長 三村 由香里



岡山大学は2050年に向けた長期ビジョン「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の達成に向け、学長以下大学全体で取り組んでいます。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」により実施している「岡大発・女性もっと活躍宣言！WITHプラン」では、「研究者になりたい」「今の研究をより深めたい」という研究者の思いを全力でサポートし、誰もが働きやすい、そしてやりがいを持てる環境づくりを目指しています！

今後、さらに充実した環境を実現することで、「岡山大学で研究者としてのキャリアを高めることができた」、「ライフイベントとの両立ができた」と思ってもらえるよう、また、一人ひとりが自分の可能性と希望を見いだしていただけるよう努めていきたいと考えています。

03

未来の研究者へのメッセージ

【氏名】 ^{いとうえ} 井上 ^{まゆり} 麻夕里 【所属】 学術研究院環境生命自然科学学域（理） 【職名】 教授

私の専門は、広くは地球科学であり、中でも、サンゴの骨格を地質学的な試料として用いることで、昔の地球環境を研究する古気候学・古環境学について研究しています。特に、地球温暖化や海洋酸性化のほか、人間活動に伴う海洋環境の変動について研究を進めています。また、サンゴそのものがどのように成長しているのか、その骨格の成長メカニズム解明に関する研究も進めています。

【未来の研究者へ】 色々学べる時は、好き嫌いせず学んでおくといいです。バランスが重要です。将来の自分を固定せず、何者にもなれる自分を作るために今できること（勉強）を存分にしてほしいと思います。もちろん、部活や趣味、遊びもです。



自分で知りたいと思ったことについて、実験をして、調べて、思った通りや全く違う結果が出てくるのは、面白い以外の何ものでもありません。

自分以外の誰も知らない世界で一つのデータを得ることができて、とても贅沢な仕事だと思っています。



【氏名】 ^{もんでん} 門田 ^{ゆき} 有希 【所属】 学術研究院環境生命自然科学学域（農） 【職名】 教授

私の専門は、植物の遺伝育種で、NGS（次世代シーケンサー：Next Generation Sequencer）を活用し、サツマイモやイチゴ、カンキツ、ブドウなど様々な作物種を対象に、遺伝解析や品種保護技術の開発に努めています。また、サツマイモなど遺伝的に複雑な倍数性作物種において、病害抵抗性に関する遺伝子を見つけて、育種で使えるDNAマーカーを開発しています。

【未来の研究者へ】 研究はうまくいかないことや大変なことも多いですが、新しい発見があったり、一歩でも



前進すると、誰もが持っている知的好奇心が満たされる感覚で最高にハッピーな気持ちになれます。また研究者同士のディスカッションはとてもワクワクします。自分の論文が引用されたり、国際学会等で「みたよ～」と言われるとやっぱうれしいです。今は、作物品種の保護に係る新しい技術開発も行っていますが、企業から販売されるところまで来ており、世の中の役に立てるような技術を開発できるのもやりがいのひとつです。大変なことも多いですが、周りのかたの協力を得ながら、日々、精進しています。



04

女性リーダー育成型海外派遣事業による派遣者からの便り

【氏名】 ^{さくらい} 櫻井 ^{もえ} 萌 【所属】 学術研究院環境生命自然科学学域（理） 【職名】 助教（特任）

令和6年度女性リーダー育成海外派遣事業に採択され、8月23日～11月10日の期間、ドイツのBayerisches Geoinstitut, Universität Bayreuthに滞在し、地球深部の水の分布に関する実験的研究に取り組んできました。こちらの研究機関は、実験地球化学および地球物理学の研究における世界でも有数の研究所で、国際共同研究拠点として、世界各国の研究者が訪れます。

ドイツの研究所で研究を進める中で、大きな違いと感じたところは研究の分業制です。日本では研究室のマネジメントに加え、実験設備・分析装置の維持管理、使用方法の指導などすべてを教員が担うことが多いです。しかし、ドイツでは分析装置ごとにそれぞれプロフェッショナルの担当研究者がおり、さらに実験に必要な消耗品の加工・製造、分析に必要な試料の準備も専門の技術スタッフが担当してくれます。このため、教員は研究のみに集中することが可能です。今まですべてを自分で進めるのが当たり前とと思っていましたが、研究遂行のためには人にゆだねることも大切であることを学び、大変興味深い経験となりました。



05

女性リーダーセミナー開催報告

趣旨

女性リーダーセミナーは、リーダーとして多方面でご活躍されている先生をお招きし、ロールモデルとして実体験に基づいたお話をしていただき、参加者に今後目指すリーダー像を考えていただくことを目的としています。

第3回テーマ 研究者としてのキャリアの中断 ～その後の展開と見えてきたもの～

講師 塩田 澄子先生 (就実大学 名誉教授) (日時) 2024年5月9日 (木) 14時00分～16時00分

研究者としてのキャリアの中断、15年のブランクを経て復帰後のキャリアの重ね方についての経験談を、その時々にて得た教訓を交えながらご紹介いただきました。管理職としての視点の変化や円滑なプロジェクトの進め方、人とのコミュニケーションの取り方についてもお話があり、セミナーの最後には岡山大学の男女共同参画の取り組みや将来について期待とエールを込めたメッセージをいただきました。



本セミナーには教職員・学部生・大学院生39名が参加し、参加者からは「自分の将来を考える上で非常に貴重なお話を聞くことができました。」「性別やブランクに関係なく、やる気や意志があれば、仕事への復帰やキャリアを広げることが可能であることが分かりました。」「とても心に響きました。私もがんばりたいと思いました。」等の感想が寄せられました。



第4回テーマ ママ、南極へ行く！

講師 大越 和加先生 (東北大学 大学院農学研究科 教授) (日時) 2024年10月16日 (水) 10時00分～12時00分

幼少期の海外や日本での経験が現在の考え方や視点にどのように影響を与えたかについてや、人生の岐路でどのように悩み、進路を選択してきたかといったお話を伺いました。また、お子様が小さい頃から、時には家族も帯同して、多くの国際学会に参加され、海外留学や南極観測隊、しんかいプロジェクトへの参加など、多様な在外研究に挑戦されたエピソードをご紹介いただきました。講演内容は、まさに「やろうと思えば何でもできる」という前向きなメッセージを含み、これからキャリアを積み上げていく大学院生や若手研究者にとって、大きな励みとなるものでした。

本セミナーには教職員・学部生・大学院生19名が参加し、参加者からは「先生の、何にでもチャレンジと飛び込んでいく姿勢を見習いたいと思いました。」「自分が想像もつかないような経験をたくさんされていて、そのお話を聞くことができすぎて面白かったです。」「日本と外国の違いや、育児・介護とお仕事のお話など、とても興味深かったです。」等の感想が寄せられました。



06

セミナー実施報告

Natureプレゼンテーション・ワークショップ

2025年2月27日 (木) 開催

本企画は、Nature誌編集部員のMaybelline Yeo氏による「効果的な研究発表」をテーマとし、朝から夕方までの講義と少人数ワークショップからなる、大変充実したプログラムでした。英語でのワークショップだったこともあり、教員だけでなく、留学生が多く参加し、活発に質問やコメントが飛び交う和気藹々とした雰囲気でした。

まず、「プレゼンテーションの構成」では、聴衆に合わせた発表の組み立てやストーリー性の重要性を学びました。次に、ポスター発表と口頭発表について具体例を交えながら、情報整理やスライド作成のポイントを学習。シンプルで視認性の高いスライドやポスターを準備すること、そして口頭での説明による、流れのある発表が理解を深める鍵であると再認識しました。

特に印象的だったのは「生成AIの活用」に関するセッションです。倫理的配慮を前提に、情報整理や議論の補助として活用する可能性が示され、今後のプレゼン準備に役立つと感じました。

「プロフェッショナルなプレゼン技術」では、視線やジェスチャー、声のトーン的重要性、質疑応答の工夫について学びました。最後に実践セッションがあり、参加者同士でフィードバックを行い、理論と実践を統合する貴重な機会となりました。

全体を通じて、プレゼン技術の向上だけでなく、研究を魅力的に伝える意義について深く考える機会となりました。今後の発表や指導にぜひ活かしていきたいと思います。



07

リサーチサポーター事業とは

本学に所属する常勤教員、非常勤研究員及び契約職員（特別契約職員にあつては教育職員に限る）に対して、出産・育児・介護等により研究時間の確保が困難になった際に、一時的な期間または緊急的に支援が必要な研究者に対して、研究活動に必要な研究補助業務（実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等）に従事する支援員「リサーチサポーター」の配置を支援いたします（男性も対象）。

リサーチサポーターには、男女共同参画室が主催する各種講座等の受講を推奨し、次世代研究者の育成を図っています。

★令和7年4月募集は終了しました。今後の募集等については、以下WEBサイトを確認ください。
< <https://okayama-u-diversity.jp/researcher-support/research-supporter/> >



リサーチサポーター事業利用者の声

氏名 ^{ハボル} 哈布尔 所属 学術研究院環境生命自然科学学域（工） 職名 助教

ライフイベントにより研究時間の確保が難しい状況でしたが、本事業の支援により研究活動に必要な研究補助が行われ、論文執筆などの時間を確保することができました。家庭生活においては、身体的・時間的・精神的な側面における負担の軽減により子供たちと過ごす時間が増え、家族たちの笑顔も増えました。



研究活動がスムーズに進んできたこと、さらに育児と仕事の両立ができたことにより私にとって精神的に安定して、もっと前向きに頑張れるようになりました。



08

出張時のベビーシッター利用費用助成制度とは

本学に勤務する常勤の教員（男女問わず）に対する研究と育児の両立支援として、子を出張に帯同し、用務先においてベビーシッター等を利用した場合の経費を大学が負担できる制度。

助成内容：ベビーシッター等を利用した時間に係る利用料金（ベビーシッター等が保育場所に移動する際に必要な交通費を含む）とする。入会金、年会費、キャンセル料、食事代、おむつ代等は対象外です。

★詳細は右記Webサイトを確認ください。< <https://okayama-u-diversity.jp/with-plan/projects/research-parenting-support/> >



出張時のベビーシッター利用費用助成制度利用者の声

氏名 ^{ほそい} 細井 ^{まいこ} 舞子 所属 学術研究院保健学域 職名 助教

今回は沖縄での学会参加のため制度を利用させていただきました。今までは知らない土地で信頼できる一時預かりの事業者を探すのに毎回苦労していました。今回はベビーシッター・育児支援事業割引券取扱事業者から探すことができたので安心して申し込めました。積極的なシッターさんが担当してくださり、ホテルの外に連れ出してお昼を食べさせてくれたり、近くの公園、海や川で遊ばせてくれたりと、子ども自身も楽しく思い出に残る時間を過ごすことができましたようでした。安心して子どもを預けることができたので、学会参加に専念できたことを有難く思っています。また次回も機会があれば是非制度を利用したいです。



妻が長期出張中の我が家では、周辺に親類もいませんので、子どもを帯同しなければ出張することが出来ません。しかし、ベビーシッター利用費用助成制度のお陰で、今年度2回出張することが可能になりました。

子どもを出張に帯同して大きく変わった点は、（今まで恐らく難しい顔をして臨んでいたであろう）出張が和やかなものになったことです。きっと子どもにとっても、出張を理解し、見知らぬ町を訪れるのは良い経験になったと思います。

お問い合わせ

国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号

TEL : 086-251-7011/7303

E-mail : sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

WEB : <https://www.okayama-u-diversity.jp>